考 察

本年度研究では、HIV 検査予約システムに対して受験者の動向をモニターするための基礎データを作成するプログラム改良までに留まったが、改良したHIV 検査予約システムが収集する集計データやアンケート結果データを組み合わせて評価する事で、HIV 検査予約システムのより効果的なポジションでの使い方が模索できるものと思われる。また、行政機関や各種団体のHIV/AIDS キャンペーン／イベント実施時の動向を、集計データやアンケート結果を組み合わせて評価する事で、キャンペーン／イベントによりHIV 検査を促進する効果がどの程度あったかをHIV 検査予約システムの利用状況の変動の面から観測する事ができるため、実施キャンペーン／イベントがどのような年齢層に作用していたのか、男性に作用しているのか、女性に作用しているのか、地域限定なのか広範囲に作用しているのか、などを評価する事ができるようになるため、より効果的なキャンペーン／イベントの実施に繋がるデータが収集できるものと思われる。

結 論

今年度のHIV 検査予約システムの運用では、現在稼動している3検査機関の予約率は何れも99～100%を常時維持し、HIV 検査予約システムとして年間で約9,500 人規模の受検希望者データを収集できるに至っている。

本年度研究では評価の基礎となる集計データを収集するために前研究で構築したHIV 検査予約システムへのデータ集計機能の実装およびアンケートシステムの構築に留まり、具体的なモニター項目やアンケート項目の検討は次年度としたが、米国著名俳優のHIV 感染告白によってHIV/AIDS が大きく注目される機会があり、これがHIV 検査にどう影響するものかをデータ的にモニターできる機会があった。しかし結果は“図5　平成27年11月度利用状況”に示すようにHIV 検査予約システム上では変化が現れない結果となり、HIV/AIDS がメディアの話題に大きく取りあげられ注目されたが、観察した3機関は必ずしもHIV 検査の受検者数の増加につながっていない結果があった。これは、以前のエイズ番組報道の反応と異なる結果であった。

健康危険情報

該当なし

研究発表

該当なし

知的財産権の出願・取得状況　（予定を含む）

該当なし

18 啓発手法の効果の評価に関する研究

研究分担者：江口　有一郎（佐賀大学医学部肝疾患医療支援学講座・消化器病学、肝臓病学（佐賀大学医学部））
研究協力者：遠峰　良美　（株式会社キャンサースキャン　介入研究事業部）
網野　舞子　（株式会社キャンサースキャン　介入研究事業部）

研究要旨

HIV 検査の啓発手法の開発と効果測定システムの確立を目的とし、肝炎対策でその効果が実証されたソーシャルマーケティング手法に基づき、ターゲットセグメントごとの行動制御要因を明らかにするためのインターネットによる行動疫学調査を実施した。行動疫学調査に至る前段階として、HIV 感染のハイリスクグループである MSM を対象とした半構造化面接を実施し、個々人における HIV 検査受検の促進要因および阻害要因を把握した上で仮説を構築し、その仮説を基に調査項目を策定した。行動疫学調査においては、今後の啓発の主なターゲットとなり得る性交渉経験のある 18 歳から 49 歳男性（HIV 感染のハイリスクグループである MSM 含む）を対象とし、1,200 名（うち、MSM600 名）からの有効回答を得た（実施時期：2015 年 12 月 18 日～ 22 日）。統計解析の結果、HIV 感染のハイリスクグループである MSM（特に、ゲイ・バイセクシャルを自認するもの）においては、その受検意図ごとに大きく異なる特徴が認められ、それらのセグメントを分かつ制御要因が特定された。

これらの結果を踏まえ、次年度においては、優先的に啓発を行うべきセグメントについて慎重な検討を加えた上で、ターゲットとするセグメント（受検意図）に焦点を当てた具体的啓発メッセージを開発し、パイロット地区（大阪地区）における介入を実施して、その効果検証を行うものとする。

研究目的

HIV 感染症の治療における近年の目覚ましい進歩で HIV 感染症は慢性疾患と位置づけられ、感染者は寿命を全う出来る時代となった。しかし、治癒は無く、生涯治療費も高額（約 1 ～ 2 億円）であり感染者および国に与える影響は未だに軽視できない。エイズ動向委員会の報告によれば、わが国の年間新規 HIV 感染者および新規 AIDS 患者の報告数は合わせて、2007 年以降、およそ 1500 件台で推移しており、横ばい傾向にある。同様に、年間の新規 HIV 感染者報告数と新規 AIDS 患者報告数の合計数に占める AIDS 患者の割合（いわゆる、いきなりエイズ率）も約 3 割で、横ばい傾向で推移している。過去約 30 年間、一次予防・二次予防に関する様々な普及啓発が行われてきたが、感染防止・早期発見いずれの側面においても、この横ばい傾向を打開する事が必要であり、そのための、有効な普及啓発手法の開発の必要性が指摘されている。

本研究においては、個人においては早期発見と早期治療、社会においては感染の拡大防止に結びつく早期発見に焦点を当て、肝炎での実践経験に立脚したソーシャルマーケティング手法による、ターゲットセグメントごとの行動制御要因を踏まえた HIV 検査の啓発手法の開発と効果測定システムの確立を目指す。

ソーシャルマーケティングとは、社会的に推奨される行動を普及させるための戦略的なプロセスであるが 1)、公衆衛生分野に特有の科学哲学や手法を取り入れるために、諸外国における疾病予防・健康増進行動の普及にかかる方法論（表 1 参照）もあわせて参考にした。

表 1．諸外国における疾病予防・健康増進行動の普及にかかる方法論

国	カナダ	アメリカ	イギリス
機関名	Health Canada Social Marketing Division	National Center for Health Marketing	National Social Marketing Centre
設立年	1981	2004	2006
所轄組織	Health Canada	Centers of Disease Control and Prevention	National Consumer Council
関連施策	Lalonde Report(1974)	Futures Initiative(2003)	Choosing Health White Paper (2004)
ウエブサイト	http://www.hc-sc.gc.ca/ahc-asc/activit/marketsoc/index-eng.php	http://www.cdc.gov/healthmarketing/	http://thensmc.com/

特に本年度は、今後の啓発の主なターゲットとなり得る性交渉の経験のある18歳から49歳男性(HIV感染のハイリスクグループであるMSM含む）における定量的な評価を通して、啓発の主なターゲットとすべきセグメントを特定すると共に、彼らのHIV検査受検行動を促進するための有効な制御要因を明らかにすることを目的とする。これらの知見は、H28年度においてHIV検査の有効な啓発手法を開発するための重要な基礎情報となる。

研究方法

1. 制御要因に関する仮説の構築および調査項目策定

本研究では、HIV感染のリスクがある者の、HIV検査受検における制御要因を網羅的に理解・把握する事が非常に大切となる。そのため、HIV感染のハイリスクグループであるMSMを対象とした半構造化面接を通して、個々人におけるHIV検査受検の促進要因および阻害要因を把握し、それらの知見を基に構築した仮説を基に、調査項目を策定した。研究対象者が日々の生活の中でどんなことを考え、感じて、信じているのか、そしてさらにその意識の背景にはどのような潜在的なニーズ、ウォンツ、価値観、障害などの「深層心理（インサイト)」が存在しているのか、対象者の内面を深く理解することは、ソーシャルマーケティング手法において重要なプロセスの一つであるが、本研究では、広く一般からリクルートしたMSM（8名）に加え、HIV陽性者（8名）にも、HIV検査未受検時～初回受検～2回目以降の受検～受診・受療の経緯を振り返る形で、受検行動の促進要因・阻害要因についての定性的な検討を行った。

1-1. MSM（8名）に対する半構造化面接

【調査手法】半構造化面接法による個別面接（90分）

【対象者】同性との性的接触経験がある男性8名（うち、HIV検査過去受検者5名、未受検者3名）

【リクルーティング手法】A社保有のモニター登録者を対象に、事前にスクリーニング質問（インターネットアンケート）をメール配信し、回答のあった者のうち「18歳～49歳男性」・「同性との性的接触経験がある」という条件に合致した者にインタビュー調査への協力を依頼した。

【実施日】2015年8月18日～21日

(倫理面への配慮)

研究参加者候補には、オンライン型のインフォームドコンセントによって研究目的や手法について事前に説明し、承諾を得た上で調査会場への来場を依頼した。また、面接開始前に再度口頭で説明を行った上で、質問する機会、および同意するかどうかを判断するための十分な時間を与え、本研究の内容を十分に理解したことを確認した上で、自由意思による同意を得た。

1-2. HIV陽性者（8名）に対する半構造化面接

【調査方法】半構造化面接法による個別面接（90分）

【対象者】独立行政法人国立病院機構大阪医療センターに通院中のHIV陽性者8名（うち、自主検査により陽性が判明した患者5名、通院に伴い付随的に陽性が判明した患者3名）

【リクルーティング手法】独立行政法人国立病院機構大阪医療センターに通院中のHIV陽性者のうち、「男性」かつ「過去2年以内にHIV感染症と診断され、かつ当院に初回受診のため来院」という条件に合致した患者を看護師が選定し、文書および口頭で調査への協力を依頼した。

【実施日】2015年9月4日、5日、10月26日

(倫理面への配慮)

研究参加者候補には、調査研究開始前に、調査研究担当者が研究目的や手法について文書および口頭で十分に説明を行った。研究参加者候補には質問す

る機会、および同意するかどうかを判断するための十分な時間を与え、本研究の内容を十分に理解したことを確認した上で、自由意思による同意を得た。研究参加者候補から同意が得られる場合は、研究参加者候補からの同意文書等への署名または記名捺印、および同意年月日の記入を得た。

※独立行政法人国立病院機構大阪医療センター　倫理研究審査（15049）

1-3. 質問票構成内容

質問票は、基本属性（年齢、居住都道府県、学歴、年収など）、HIV検査の受検経験、受検行動への関心、HIV/AIDSについての知識・主観的評価、HIV検査についての知識・主観的評価、HIV治療についての知識・主観的評価、規範意識、性的指向、性行動（セックスの相手やコンドームの使用状況、売買春の経験）、ゲイ男性との交友関係（ゲイの友人の数）、ゲイ向け商業施設（ハッテン場やゲイバーなど）の利用状況、周囲との関係、HIVに関する周囲との会話の有無、健康行動（健康診断やがん検診受診経験）、喫煙、アルコール・薬物使用状況、自尊心尺度、などから構成した。（別添1参照）

2. 日本在住の男性（HIV感染のハイリスクグループであるMSM含む）を対象とした定量調査の実施

【調査方法】B社保有のモニター登録者を対象とした無記名自記式のインターネット調査。回答システムは、インターネット環境の多様化を鑑み、PC、スマートフォン、タブレット、携帯電話のいずれの端末からも回答可能な形で構築した。

【対象者】性交渉経験のある18歳から49歳の日本在住の男性1,200名（うち、MSM600名を含む）。なお、各年代におけるMSMとMSM以外の男性の意識の差異を比較するため、各年代（18～29歳、30～39歳、40～49歳）においてMSMとMSM以外の男性それぞれ200名ずつの割り付けを行った。

【実施日】2015年12月18日～22日

【統計解析】研究参加者のセクシャリティやHIV検査の受検意図に基づき解析を行った。分析には、SPSSとSTATAを使用した。

（倫理面への配慮）

研究参加者には、オンライン型のインフォームドコンセントによって研究目的や方法について事前に説明し、承諾を得た後に質問票回答に進むシステムとした。また、質問票の回答途中であっても自由に研究参加を取りやめることが可能であることを付記した。

研究結果

第一にHIV感染のハイリスクグループであるMSMにおける受検意図と受検経験、HIV感染不安や性行動、またソシオエコノミックステータスやHIVに関する知識／認識の関係を把握する事を目的とし、MSMを対象とした分析を実施した。MSMにおいては、セクシャリティ認識が「ゲイ」(23%)・「バイセクシャル」(34%)・「ヘテロセクシャル」(36%)・「その他／分からない・答えたくない」(8%)が混在したが、受検経験や受検意図、感染不安や性行動に、ゲイ・バイセクシャルと明らかに違いが見られた「ヘテロセクシャル」(36%)・「その他／分からない・答えたくない」(8%)を除き、ゲイ・バイセクシャルを自認するMSMのみを対象に分析を行った。

1. ゲイ・バイセクシャルを自認するMSMにおけるHIV検査受検意図

ゲイ・バイセクシャルを自認するMSMにおいては、HIV検査を「半年以内に受けたい」が26%、「いつかは受けたい」が37%と、何らかの受検意図を持つものが過半数を占めた。一方で、「受けるつもりはない」が25%、「分からない」が12%であった（図1）。

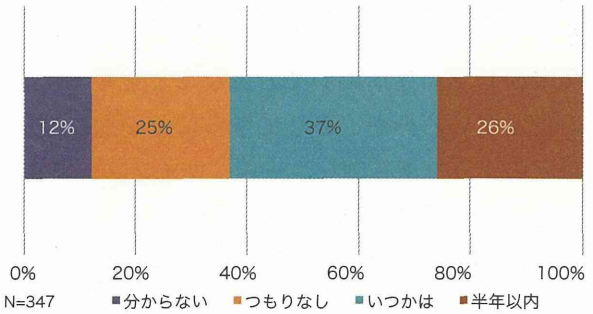


図1

2. 受検意図と受検経験の相関関係

「半年以内に受けたい」と回答したうち、78%には受検経験があった。一方で、「いつかは受けたい」と回答していても、受検経験があるものは52%に留まった。

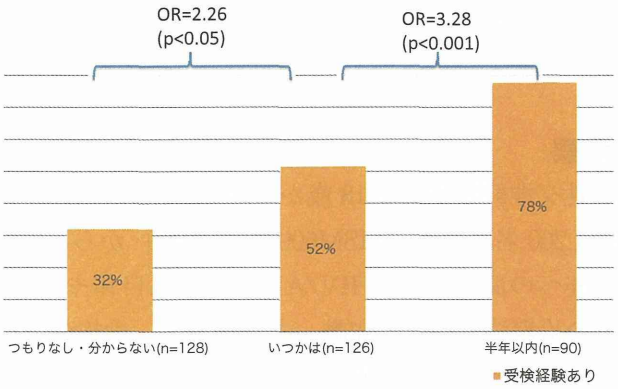


図２　*P 値は Wald 検定による

3. 受検意図と感染不安 / 性行動

重回帰分析によると、感染の心配（P<0.001）や6カ月以内の経験人数（P=0.029）は、受検意図との相関がみられた。

表２

	非標準化係数	標準化係数	有意確率*
感染することを心配	.34	0.40	0.000
6か月以内の経験人数	.14	0.12	0.029
過去の経験人数	.06	0.11	0.059
セーファーセックス	-.02	-0.02	0.704
国内での買春	.09	0.05	0.296
国内での売春	-.03	-0.02	0.775
海外での買春	.09	0.04	0.499
海外での売春	.21	0.08	0.186
年齢	-.03	-0.03	0.518
（定数）	.66		0.000

重決定係数=.268 (p<0.001)

4. 受検意図と意識、周囲との関係、ソシオエコノミックステータス

受検意図のステージが高くなるにつれ、HIV をより身近と感じ、感染を心配する率が有意に高かった。また、自分のセクシャリティに関する肯定度が高く、ゲイの友人の数が多かった。また、学歴にも、有意差が見られた。

表３

	無関心（つもりなし・分からない）	関心期（いつかは）	準備期（半年以内に）
HIVにまつわる意識			
HIVは身近	41.4%*	72.9%*	91.1%*
感染を心配	35.2%*	73.6%*	90.0%*
自身のセクシャリティを肯定	74.2%	74.4%*	86.7%*
周囲との関係			
ゲイの友人	少ない*	やや多い*	多い*
大病をした時、心の支えとなる友人がいる	40.6%	37.2%	47.8%
家族との関係が良好	67.2%	76.7%	77.8%
属性			
年齢の中央値	36歳	33歳	34歳
大学在籍・卒業以上	52.3%	54.3%*	74.5%*
世帯年収が600万以上	39.9%	48.8%	56.7%

*p<0.05

5. 受検意図を分かつ制御要因（知識・主観的評価）

5-1.「半年以内に受けたい」vs.「いつかは受けたい」

ステップワイズ法（P<0.1）により変数選択をおこなったロジスティック回帰分析の結果、受検の意図（「半年以内に受けたい」vs.「いつかは受けたい」）に影響する要因が明らかとなった（別添２参照）。「半年以内に受けたい」セグメントが、治療に関する具体的な知識（「抗 HIV 薬によりエイズの発症を抑えることができる」）や、早期発見のメリット（「治療は、一日一回で良い飲み薬もある」）について認知していた（P<0.05）。一方で、陽性判明時の不安（「感染が判った時にそれを受け止めることが心配だ」・「感染による体調不良が心配だ」）は大きいことが判明した（P<0.05）。

半面、「感染していないことを知って安心したい」といった項目については、「いつかは受けたい」セグメントの方が有意に高かった（P<0.05）。

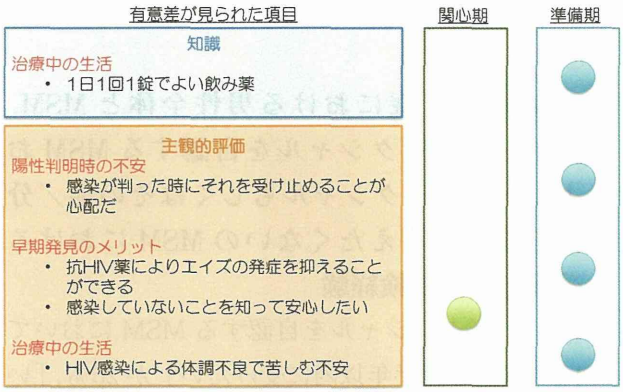


図３（別添２参照）

5-2.「いつかは受けたい」vs.「受けるつもりはない / わからない」

ステップワイズ法（P<0.1）により変数選択をおこなったロジスティック回帰分析の結果、受検の意図（「いつかは受けたい」vs.「受けるつもりはない / わからない」）に影響する要因が明らかとなった（別添３参照）。「いつかは受けたい」セグメントが、検査に関する知識（「保健所でも受けられる」）を認知していた（P<0.05）。また、「感染していないことを知って安心したい」という気持ちは強い。一方で、陽性判明時の不安（「感染により仕事に影響が出る」）は大きいことが判明した（P<0.05）。

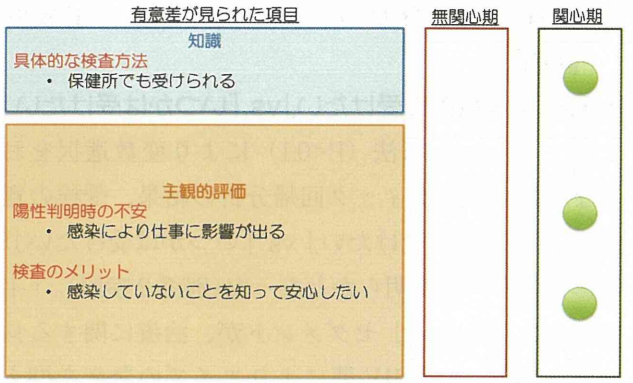


図４（別添３参照）

6. 受検意図に影響する要因（決定木分析）

知識・主観的評価以外の、きっかけやゲイコミュニティとの距離、周囲との関係なども含めて決定木分析を行ったところ、受検意図に最も大きく影響した要因は、「家族や友人と HIV について話したことがある」というきっかけであった（P<0.001）。続いて影響が大きかったのは、「感染していないことを知って安心したい」という検査のメリットであった（P<0.001）。（別添４参照）

7. 18 歳から 49 歳における男性全体と MSM、ゲイ・バイセクシャルを自認する MSM およびヘテロセクシャルもしくはその他／分からない・答えたくないの MSM における受検意図、受検経験

ゲイ・バイセクシャルを自認する MSM においては、HIV 検査を「半年以内に受けたい」が 26%、「いつかは受けたい」が 37%と、何らかの受検意図を持つものが過半数を占めたのに対し、男性全体では、「半年以内に受けたい」が 5%、「いつかは受けたい」が 24%と、MSM に比べ受検意図が低い傾向が見られた。

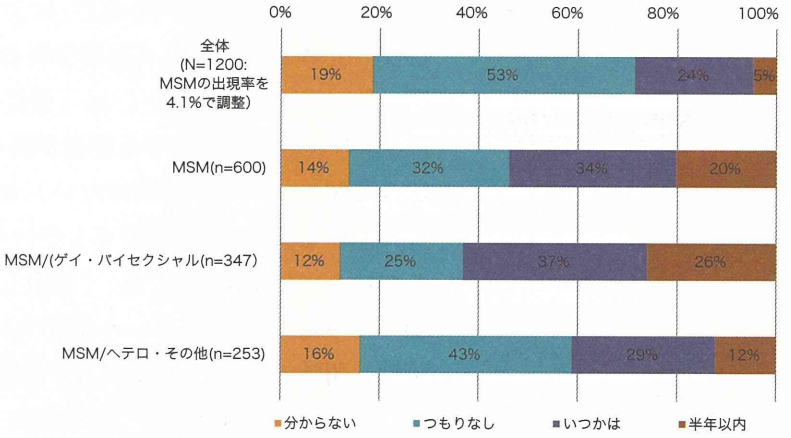
考 察

性交渉経験のある 18 歳から 49 歳の日本在住の男性 1,200 名（うち、MSM600 名を含む）から、HIV 検査への関心度や、HIV/AIDS の疾患自体や検査、その治療法に関する知識、主観的評価、受検のきっかけといった情報を得た。HIV 感染のハイリスクグループである MSM（特に、ゲイ・バイセクシャルを自認するもの）においては、その受検意図を分かつ知識や主観的評価は、受検意図のセグメント（「半年以内に受けたい」、「いつかは受けたい」、「受けるつもりはない／分からない」）ごとに、異なることが今回の調査で示された。受検意図に応じた啓発メッセージを開発することで、より効果的な啓発が可能となると考えられる。

次年度においては、いずれのセグメントに対して優先的に啓発を行うべきか慎重な検討を加えた上で、ターゲットとするセグメント（受検意図）に応じた具体的啓発メッセージを開発し、パイロット地区として大阪地区を対象とした介入を実施し、効果検証を行う予定である。

結 論

HIV 感染のハイリスクグループである MSM（特に、ゲイ・バイセクシャルを自認するもの）においては、受検意図ごとに大きく異なる特徴が認められ、それらのセグメントを分かつ制御要因が特定された。



*MSMの出現率については先行研究を参照（引用：厚生労働科学研究費補助　エイズ対策研究事業「MSMのHIV感染対策の企画、実施、評価の体制整備に関する研究―平成25年度　総括・分担研究報告書―」）

図５

健康危険情報

該当なし

研究発表

該当なし

知的財産権の出願・取得状況　（予定を含む）

該当なし

参考文献・資料

1）Kotler P, Lee NR. Social Marketing: Influencing Behaviors for Good. Sage Publications; 2008.

別添 1

No.	スクリーニングクエスチョン
1	あなたはこれまでにセックスの経験はありますか。以下の中から、当てはまるものを一つお答えください。※ここでいうセックスには、アナルセックス、オーラルセックス、相互マスターベーションを含む
2	あなたがこれまでにセックスをした相手の性別をお聞かせください。以下の中から、当てはまるものを一つお答えください。※ここでいうセックスには、アナルセックス、オーラルセックス、相互マスターベーションを含む
No.	本質問
	【受検の経験】
1	あなたはこれまでに、HIV 検査を受けたことはありますか。以下の中から、当てはまるものを一つお答えください。
2	あなたはこれまでに、何回 HIV 検査を受けましたか。以下の中から、当てはまるものを一つお答えください。
3	あなたはこれまでに、どのようにして HIV 検査を受けましたか。以下の中から、当てはまるものをすべてお答えください。
4	あなたは 2015 年に HIV 検査を受けたことはありますか。以下の中から、当てはまるものを一つお答えください。
5	HIV 検査の受検経験がある方にお伺いします。あなたの HIV ステイタスについて、以下の中から、当てはまるものを一つお答えください。
6	HIV 陽性の方にお伺いします。あなたの現在の医療機関への受診状況について、以下の中から、当てはまるものを一つお答えください。
	【受検行動への関心】
7	あなたは今後 HIV 検査を受けるつもりはありますか。以下の中から、当てはまるものを一つお答えください。
8	HIV/エイズはあなたにとって身近な病気だと思いますか。以下の中から、当てはまるものを一つお答えください。
9	あなたは HIV に感染することについて、どのくらい心配していますか。以下の中から、当てはまるものを一つお答えください。
10	あなたは HIV 検査で結果を知ることについてどのように思いますか。以下の中から、当てはまるものを一つお答えください。

	主観的評価・信念
	【HIV/エイズについての知識】
11	HIV/エイズについて、お伺いします。以下の各項目について、あなたのお考えに最も当てはまるものをそれぞれ一つお答えください。
	・最近の日本の新規 HIV 感染者報告件数は、増加傾向にある
	・HIV 陽性であることと、エイズであることは違う
	・性感染症に感染していると、HIV に感染しやすくなる
	・HIV に感染しても、必ずエイズを発症するとは限らない
	・HIV 感染初期を過ぎれば、何の症状も出ない状態が 10 年以上続くこともある
	・HIV は CD4 陽性 T リンパ球などに感染して増殖し、体内の免疫機能を低下させる
	・HIV 感染により免疫力が低下したままでいると、さまざまな感染症や悪性腫瘍になりやすくなる
	・免疫機能が低下することによって日和見感染症などの定められた疾患を発症するとエイズと診断される
	【HIV/エイズについての主観的評価】
12	HIV に感染することについて、あなたはどのように思われますか。以下の各項目について、あなたのお考えに最も当てはまるものをそれぞれ一つお答えください。
	・HIV に感染して死ぬこと
	・HIV 感染による体調不良に苦しむこと
	・HIV 感染により、仕事に影響が出ること
	・HIV 感染により、自分のセクシャリティやプライバシーを周囲に知られてしまうこと
	・HIV 感染を知った知人・友人から、差別や排除を受けること
	・社会から差別や排除をうけること
	・HIV 感染を知ったパートナー（配偶者や恋人）と離別すること
	・HIV に感染していると、恋愛やセックスをしにくくなること
	・つらい気持ちや闘病生活を受け止めること
	・家族や友人など身近な人に心配をかけること
	【検査についての知識】
13	HIV 検査について、お伺いします。以下の各項目について、あなたのお考えに最も当てはまるものをそれぞれ一つお答えください。
	・HIV の検査は保健所等でも受けられる
	・HIV の検査は無料でも受けられる
	・HIV 検査は、個人を特定されずに受けられる
	・感染した可能性がある日から 3 ヶ月内に受けた HIV 検査では、実際は HIV に感染していても、検査で感染がわからない場合がある
	【検査についての主観的評価】
14	HIV 検査について、お伺いします。以下の各項目について、あなたのお考えに最も当てはまるものをそれぞれ一つお答えください。
	・HIV 検査の際に、自分のセクシャリティや過去の性行動などについてたずねられるかもしれないこと

	・検査で HIV に感染しているとわかった時に、それを受け止めること
	【検査についての効力】
15	HIV 検査を受けることについて、お伺いします。以下の各項目について、あなたのお気持ちに最も当てはまるものをそれぞれ一つお答えください。
	・HIV 検査で、感染していないことを知って安心したい
	・HIV に感染していれば、早く知っておきたい
	・HIV 検査を受ける場所や時間は限られているので、うける機会がない
	【治療についての知識】
16	HIV/エイズの治療について、お伺いします。以下の各項目について、あなたのお考えに最も当てはまるものをそれぞれ一つお答えください。
	・HIV の治療は、治療費の自己負担額が高い
	・HIV の治療は、助成金を利用すれば、自己負担は少なくなる
	・HIV の治療は、1 日に 1 回 1 錠でよい飲み薬もある
	【治療についての主観的評価】
17	あなたが HIV/エイズに感染しているとしたら、治療についてどのように思われますか。以下の各項目について、あなたのお気持ちに最も当てはまるものをそれぞれ一つお答えください。
	・完治することが無いので、治療が長期化すること
	・毎日の服薬を続けられないこと
	・治療による副作用
	・治療による金銭的負担
	・治療により、HIV 感染や自分のセクシャリティが周囲に知られてしまうこと
	・治療を受けることで、仕事に影響が出ること
	【治療についての効力】
18	あなたは HIV/エイズの治療効果についてどのように思われますか。以下の各項目について、あなたのお気持ちに最も当てはまるものをそれぞれ一つお答えください。
	・抗 HIV 薬によりウイルスの増殖を抑えられ、長期にわたり健常時と変わらない日常生活を送ることができる
	・抗 HIV 薬によりウイルスの増殖を抑えられ、エイズの発症を防ぐことができる
	・エイズを発症しても、適切な治療をうければ回復することができる
	・病院では医師や看護師らのチームによるサポートを受けられる
	【規範】
19	あなたの身近な人の意識や行動についてお伺いします。以下の各項目について、あなたのお考えに最も当てはまるものをそれぞれ一つお答えください。
	・あなたの身近な人（友人、パートナーや家族）はセックスをする際に、HIV/エイズなど性感染症の予防をしている
	・あなたの身近な人（友人、パートナーや家族）は、あなたがセックスをする際に、HIV/エイズなど性感染症の予防をするべきだと思っている

	・あなたの身近な人（友人、パートナーや家族）は、HIV 検査を受けている
	・あなたの身近な人（友人、パートナーや家族）は、万が一でも感染の可能性があるならば、あなたは HIV 検査を受けるべきだと思っている
20	あなたは、自分と同じような性行動をとっている人たちの意識や行動について、どのように思われますか。以下の各項目について、あなたのお考えに最も当てはまるものをそれぞれ一つお答えください。
	・彼らは、セックスをする際に、HIV/エイズなど性感染症の予防をしている
	・彼らは、セックスをする際に、誰もが HIV/エイズなど性感染症の予防をするべきだと思っている
	・彼らは、HIV 検査を受けている
	・彼らは、万が一でも感染の可能性があるならば、誰もが HIV 検査を受けるべきだと思っている
	意識に影響を与える背景要因
	【セクシャリティ】
21	あなたのセクシャリティについてお伺いします。以下の中から、当てはまるものを一つお答えください。
22	あなたは現在、自分のセクシャリティについてどのように感じていますか。以下の中から、当てはまるものを一つお答えください。
23	あなたは現在、特定のパートナーはいますか。以下の中から、当てはまるものを一つお答えください。
24	あなたの現在の居住状況、同居している人についてお伺いします。以下の中から、当てはまるものを一つお答えください。
25	あなたがあなたのセクシャリティをカムアウトしている範囲についてお伺いします。以下の中で、当てはまるものをすべてお答えください。（自らカムアウトしたわけではないが、知っているだろうと推測する人も含む）
	【ゲイコミュニティとの距離】
26	あなたは、名前やあだ名を知っているような、ゲイの友人・知人は何人いますか。以下の中から、当てはまるものを一つお答えください。
	【周囲との関係】
27	あなたには、大病をした際に心の支えとなるような友人はいますか。以下の中から、当てはまるものを一つお答えください。
28	あなたは、親や兄弟姉妹との関係は良好ですか。以下の中から、当てはまるものを一つお答えください。
	【性的活動】
29	あなたが過去 6 か月にセックスをした人数を数字でご記入ください。 ※セックスとは、アナルセックス、オーラルセックス、相互マスターベーションを含む
30	過去 6 か月にセックスをした方にお伺いします。以下の中から、あなたの経験に最も当てはまるものを一つお答えください。
31	あなたがこれまでにセックスをした人数を数字でご記入ください。 ※セックスとは、アナルセックス、オーラルセックス、相互マスターベーションを含む
32	あなたの過去の行動についてお伺いします。これまでのあなたの経験に最も当てはまるものを一つお答えください。
33	あなたは過去 6 か月、以下の施設や手段を利用しましたか。以下の各項目について、あなたの経験に最も当てはまるものをそれぞれ一つお答えください。